

オルガン要約 § 111～120

§ 111 薬物は、それぞれが「確定的な症状」を生み出すことができ、それぞれ「特徴的(特有)」なものである。

§ 112 人が生命の危険に晒されるのは、薬物(毒物)の一次作用によるものではなく、生命エネルギーの逆作用(二次作用)によるものである。

ホメオパシーのプルービングでは一次作用しか見ることはできない。適量で投与するため二次作用については、健康な状態にするのに必要なだけの作用しかないから確認できない。

§ 113 § 112 の例外は麻薬である。麻薬では一次作用では鈍感に、二次作用では鋭敏になるから。

§ 114 プルービングでは一次作用(健康状態を変化させ、病的状態を生み出す)しか知覚することはできない。

§ 115 一次作用の中には部分的に反対の作用が見られることがあるが、これは二次作用ではなく、交互作用と呼ぶ。

§ 116 レメディの作用には三つある。

- A) 多数の人に発現する症状。
- B) 少数の人 //
- C) きわめて少ない人 //

§ 117 レメディに過剰に反応する人(上記 C タイプ＝特異体質)がいるが、本当は全ての人に作用を及ぼしている。それほど際立って病的状態にならないだけのことである。

§ 118 レメディにはそれぞれ特有の作用があり、すべて異なっている。

§ 119 三界に存在するどの原材料も異なったあり方をしているのだから、それぞれ作用が違うのは当然で、混同してはならない。

(注 1) それぞれの物質は医薬作用の点で決して同じものはないし代用になるものも存在しない。

(注 2) 本物の医師であれば、個々の物質のプルービングをして、その真の効能を探るはず。しかし、過去のほとんどの医師は、狂人に似て、その効能も知らず、偶然を頼りに処方してきた。

§ 120 レメディをそれぞれ厳密に区別してプルービングすること。そうすればレメディの作用が正確に理解でき、的確な処方をするのが可能になる。それによってこの世で最高の幸福すなわち心身の健康を獲得できる。